



向山小学校の教育目標：○やりぬく子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子

練馬区立向山小学校

平成28年度ももう残すところ数日となりました。今年度1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございました。

本校では毎年、保護者、児童、教職員、学校評議員の方々に向山小学校の教育活動に関するアンケートを実施しています。

それは、

- ①今年度の教育活動を多面的に振り返り、今後の教育活動の一層の充実・向上に生かす。
- ②保護者や児童の意見を受け止め、今後の教育活動の参考にする。
- ③次年度計画作成の資料とする。

という目的であり、その結果等を活用して、教育活動のさらなる向上をめざしています。

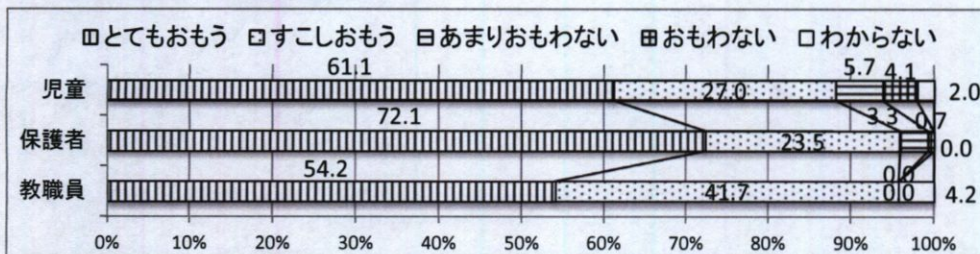
アンケートは、教職員・児童・保護者に14の共通項目、さらに、教職員・保護者に3つの共通項目で実施し、回収率は、教職員100%、児童99%、保護者93%でした。保護者からのアンケート提出が昨年度より4%上がったことは、学校公開日以外にも様々な場面で教育活動を公開してきたことで、保護者の関心が高まったと考えられます。こんなにも多くのご家庭からアンケートをいただいたこと、改めて感謝申し上げます。

今年度は、一昨年課題であった「あいさつ」「規範意識」「基本的な生活習慣の確立」に力を入れると共に、「よく分かり、よくできる授業」を目指して指導方法を工夫し、授業改善に取り組み、学力向上を図って参りました。また、道徳授業や読書活動を充実させ、豊かな心の育成に努めてきました。

アンケート結果については校内で十分に分析、考察して、来年度の向けて、長期的目標と短期的目標を設定し、具体的な手立てを実践していきます。

アンケート結果

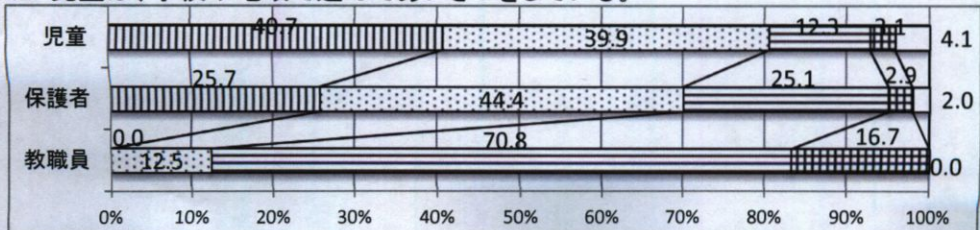
Q1. 児童は、楽しく学校に通っている。



質問1	学校での生活は楽しい。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.4	3.5	3.4
H27	3.5	3.7	3.3
H28	3.4▼	3.7	3.6△

【保護者のご意見】	○現在は学校に行くのを楽しみにしており、様々なことを学び吸収しているようです。
	○日々、先生に会うのをとても楽しみにして学校へ行くので、こちらもとても安心です。
【学校の取組】	今年度、向山小は『子供たち一人一人が安心して、楽しく、生き生きと生活できる学校』を目指して教育活動に取り組んでいます。その際、「一人残らず全員ということが大切」と考え、全ての児童が「学校は楽しい」と答えられるよう、学校生活の工夫・改善を図っているところです。
	「楽しい」という気持ちには様々な意味が含まれます。行事や友だちと過ごす時間や、知らなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったり、将来への夢を描いてそれに向かって新しいことにチャレンジしたり、自分を高めていくことに喜びを感じる事が「楽しい」と感じるような教育活動をすすめています。

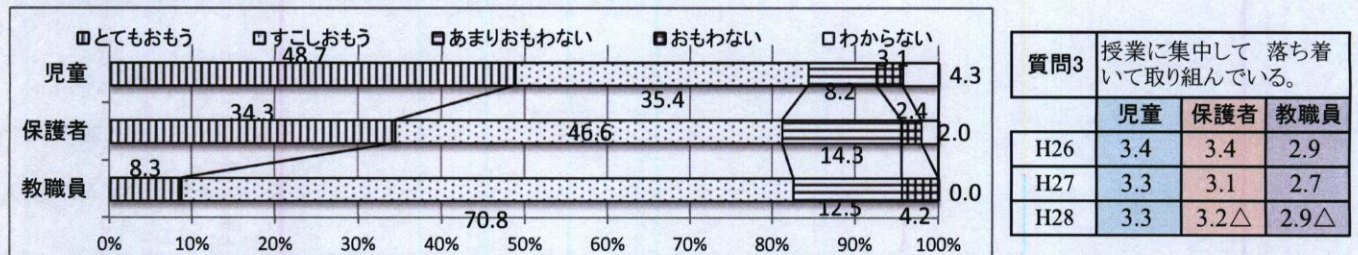
Q2. 児童は、学校や地域で進んであいさつをしている。



質問2	学校や地域で進んであいさつをしている。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.3	3.0	2.2
H27	3.2	2.9	1.8
H28	3.2	2.9	2.0△

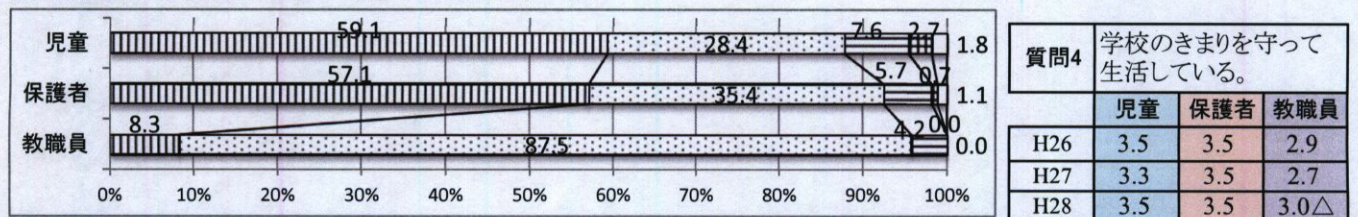
【保護者のご意見】	<p>○登校時には、校長先生が門に立ち「おはよう」と一人一人にあいさつをしていることに驚きました。</p> <p>○地域の人と顔見知りになり、災害時などの緊急時や防犯など、家庭・地域・学校が一体となって行うことで住みよい地域づくりにつながっていると思います。</p> <p>○学校のスタッフは本当に気持ち良くあいさつをしてくださるので、大人同士のこういった姿をどんどん子供たちに見せていきたい。</p> <p>▲ここ数年、挨拶しても返さないお子さんが増えています。家庭の中で学んでいくことが基本だとは思いますが。</p> <p>▲家庭教育が基本とは思いますが、パトロール等で子供の姿を見ると挨拶しない子供が増えています。声を掛けられても返さない子供が多いです。</p>
【学校の取組】	<p>向山小では、気持ちの良いあいさつがかわせる児童であってほしいと「あいさつ目標」を毎月設定し、「あいさつは心と心をつなぐ魔法のことば」をスローガンに、児童による「あいさつ運動」や「あいさつビンゴ」等に取り組んでいます。</p> <p>1学期は取り組みの成果が現れ、校内ですれ違うときにも「こんにちは」というあいさつが聞かれるようになりましたが、夏休み以降は停滞していると感じます。精神的な発達段階において「はずかしい」という気持ちが先立つようになることもあります。あいさつは人間関係の潤滑油です。自然にあいさつができるようになることは豊かな人間性を育むことと考え、学校と家庭、地域がみんな、あいさつの輪を広げていく取り組みを継続して参ります。</p>

Q3. 児童は、学習に集中し落ち着いて授業に取り組んでいる。



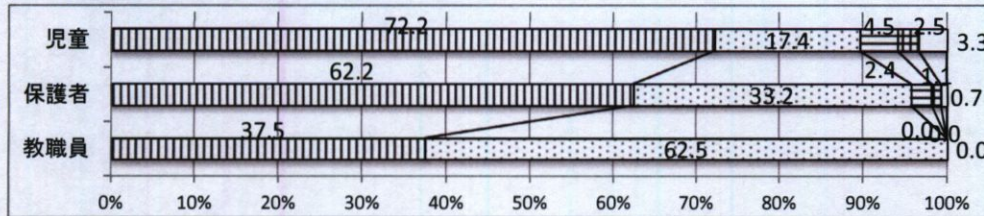
【保護者のご意見】	<p>▲手を挙げる生徒と挙げない生徒の違いがはっきりしている。一部の不規則発言を繰り返す生徒の言動に手を焼き大変苦労されているのも胸が痛みます。</p> <p>▲クラスが騒がしいので集中出来ているとは思わない。クラス全体が「人の話を聞く」というルールが定着していないと思う。</p> <p>▲毎回子どもたちのユニークな意見がとびかう光景に活気を感じる反面、多少集中力が損なわれてしまいがちか。せっかく工夫をこらした授業が、一部のふざけた子どものやじによって台無しになってしまうので、残念です。</p> <p>▲もっと授業に集中させるようにご指導をお願いいたします。例えば、生徒達が先生の言うことを更に聞くご指導。</p> <p>▲姿勢やえんぴつのもち方など、基本的な部分をしっかりとできるように、先生が言葉にして授業中に伝えてほしい。</p> <p>▲子供が宿題をするときに全く集中していないし、学校でも勉強がいやだと言っているので授業も集中していないと思います。家でも本人の集中力がつくように考えたいと思います。</p>
【学校の取組】	<p>学校生活の中心は授業です。「確かな学力」を身に付けさせることが学校教育の基本と考え、〔1〕基礎・基本の定着、〔2〕学習習慣の確立、〔3〕言語活動の充実と児童が主体的に取り組む授業、を基本方針としています。</p> <p>「向山小の子供たち【学習編】」では、<u>(1) 時間を守る</u> <u>(2) 学習用具の準備</u> <u>(3) 話をしっかり聞く</u>、ということを授業の基本としています。これら3つは「当たり前」のことであり、普通のことです。誰にでもできることであり、誰でもできなければならないことです。ところが実際にはそう簡単なことではありません。学校と家庭が協力し合って子供たちをサポートしていく必要があります。そして何よりも、自分自身が意識をもって身につけなければならないことを子供たちに気付かせていくことが大切だと考えています。</p>

Q4. 児童は、学校生活のきまりを守り生活している。



【保護者のご意見】	<p>▲低学年の内から宿題をやっとなければ居残りなどをしてでもやらないとだめだということを教えて欲しい。家庭での声かけにも限界がある。</p>
【学校の取組】	<p>平成28年度の全国学力調査（6年生）と東京都の学力調査（5年生）の児童質問紙において、「学校のきまりを守っている」と答えた向山小の児童は86%でした。これは学校評価アンケート結果とほぼ同じくらいです。全国・東京都では96%ですから、比較という視点では向山小の児童の「規範意識」は低いと言えます。「きまりだから守らなければならない」のではなく、何のためのきまりなのか、どうしてきまりが必要なのか等をきちんと理解させ、きまりを守ることが自分たちの学校生活をより良くすることにつながるのだということを実感させることで、「規範意識」を高めていきたいと考えています。</p>

Q5. 児童は、友達と仲良く生活している。

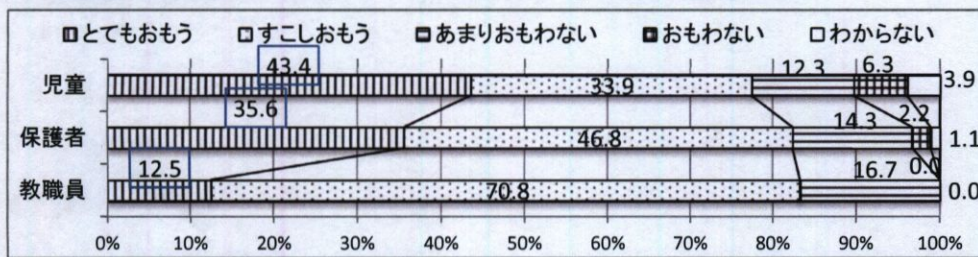


質問5	友達と仲良く生活している。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.7	3.6	3.3
H27	3.6	3.6	3.2
H28	3.7△	3.9△	3.4△

【保護者のご意見】
 ○4月にクラス替えがあったとは思えないほど、皆が和気藹々と授業に臨んでいた印象を受けました。
 ○2年生になって、学校が安心して楽しい場所になっているんだと感じ、(授業参観をしている)私も、学校が居心地の良い空間でした。

【学校の取組】
 向山小では、居心地の良い学校づくりのために、教育相談体制を整えています。スクールカウンセラーと5年児童との全員面接、教師と児童との「にこにこ相談日」の設定など、教師と児童との対話を重視し、ふれあいの中で信頼関係を築き取組をしています。
 本校は、「いじめは、人間として絶対に許されない人権侵害である」を基本姿勢として、いじめ根絶を目指しています。「学校いじめ防止基本方針」を策定、「学校いじめ防止対策委員会」を中心として、毎月のいじめアンケートの実施やいじめ撲滅標語作成等、いじめ一掃プロジェクトを推進しています。

Q6. 児童は、表現力やコミュニケーションの力が身に付いてきている。

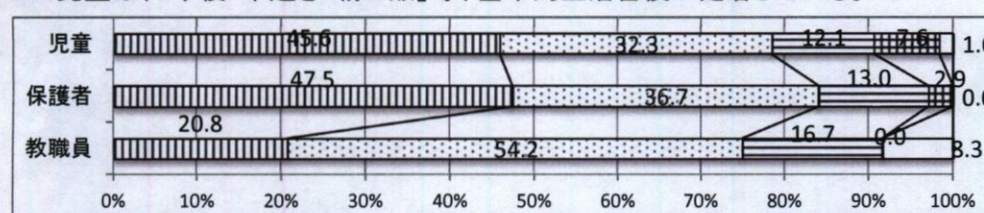


質問6	自分の思いや考えを、先生や友だちに言葉で伝えている。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.3	3.2	2.8
H27	3.2	3.2	2.7
H28	3.2	3.3△	3.0△

【保護者のご意見】
 ▲表現力はついてきているかもしれませんが、順序よく話すことがもう少しできたらいいと感じます。
 ▲表現力が不十分だと感じる事が生活の会話でも感じとれる。
 ▲コミュニケーションが上手にできないために、友達とうまくつきあえない。学校だけでなく、家庭においても努力が必要と思います。

【学校の取組】
 「向山小学校の期待される子供の姿」の一つが「人と積極的にかかわろうとする子供」です。そのために重点的に取り組んでいるのが「言語活動の充実と児童が主体的に取り組む授業」の実践です。感動を伴う学習の展開、話し合いや発表活動の充実、主体的・対話的で深い学びの推進によって、思考力、判断力、表現力を育み、コミュニケーション能力を高める教育活動を実践して参ります。
 本校では、「考えたことを発表する」活動を多く取り入れています。朝の会や帰りの会、生活科や総合の時間、委員会活動、そして各授業の中で、様々な場面を設定して、自分自身を「発信」していく力を身に付けさせたいと考えるからです。家庭とも連携して、豊かなコミュニケーション能力を育てていきます。
 また平成29年度は、ALTによる外国語活動は、5・6年生が年間35時間、3・4年生も年間10時間、英語によるコミュニケーション活動を展開し、国際社会に生きるグローバルな資質を育成していきます。

Q7. 児童は、「早寝・早起き・朝ご飯」等、基本的な生活習慣が定着している。

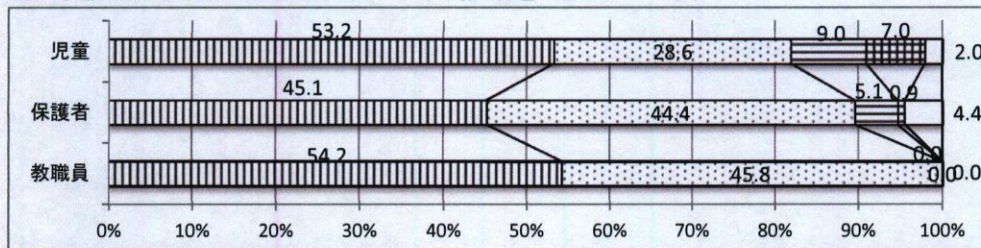


質問7	「早寝・早起き・朝ご飯」が定着している。		
	児童	保護者	教職員
H26		3.4	3.2
H27		3.3	2.6
H28	3.3	3.3	3.0△

【保護者のご意見】
 ▲これは我が家の問題なので、学校評価には馴染まないと思います。
 ○保護者は、学校に求めるばかりでなく、家庭ですべきことを、しっかりとやる姿勢が大切だと思います。
 ○「そら豆の皮むき」、興味深くそら豆を観察し、感想や発見をのびのびと発言する1年生らしい姿。食育を取り入れると残さず食事を食べられるようになってきました。

【学校の取組】
 「基本的な生活習慣」とは何でしょうか。わかっているようでいて曖昧なこともあります。児童の人格形成の基礎となることに間違いはありません。学習に基礎・基本の習得が必要のように、生活においても基本的な生活習慣は今まさに身に付けなければなりません。そのために、学校は、家庭や地域と手を取り合って、目の前にいる子供たちを育てていこうと、連携を図って参ります。
 また本校では、「早寝、早起き、朝ご飯」をスローガンに、食と心身の健康との関わりについて興味関心を高め、食の安全や食文化に対する理解を深める「食育」を推進しています。「食」は体だけでなく、精神をつくり、人格形成に大きく影響を及ぼします。生活リズムの定着や向上において、家庭との連携を図りながら、食を通しての人格形成を図っています。

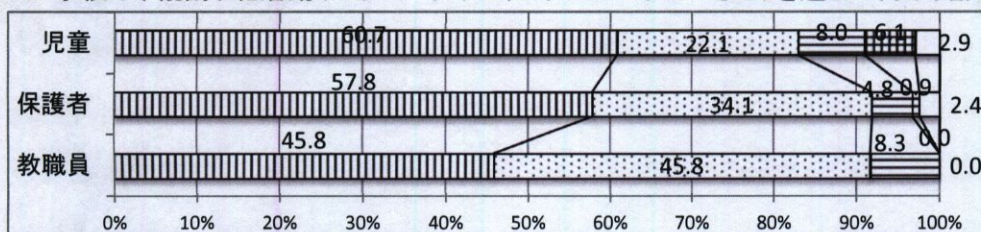
Q8. 学校は、子供に分かりやすいよう、授業を工夫している。



質問8	授業は、よくわかり 楽しい。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.4	3.5	3.3
H27	3.4	3.2	2.9
H28	3.3▼	3.4△	3.5△

【保護者のご意見】	<p>○子供一人一人が発表し、自分の意見を説明して聞いてもらい、質問に答えるのは、本人の自信につながり、良い経験になると思います。</p> <p>○先生方の工夫された授業の進め方に、たいへん興味深く参観いたしました。</p> <p>○プロジェクターを使用してとても見やすく、わかりやすい授業でした。「そら豆の皮むき」では、小型カメラで手元をスクリーンに映し出し、6年生の算数は、円の面積の求め方をパソコンとプロジェクターを使い、図で説明されていて理解しやすかった。</p> <p>○社会の授業、丁寧に先生が説明されてわかりやすく工夫されていると思いました。我が子にとっては理解しやすいと思いますが、塾に通っている子は少し物足りないと感じたかもしれません。でも分かっているからといって授業態度が乱れることなく、同じ歩みで授業を受けていることに、6年生とはいえ子どもの素直な気持ちが感じられました。</p>
【学校の取組】	<p>向山小学校では、各クラスに実物投影機を設置し、大型テレビやデジタル教科書等、ICT機器を活用した授業を行っています。校内LANの整備によって教室でもインターネットを使えるようになり、児童の興味関心が深まる授業の工夫に取り組んでいます。</p> <p>しかしアンケート結果では、教員や保護者の評価が高い一方で、児童の評価では、「とても思う」と答えた児童の割合は53%を以上ですが、「あまり思わない」「思わない」「わからない」と答えた児童が18%もいます。この18%の児童たちは、このままでいくと、授業への関心や意欲が損なわれる危険性につながる恐れがあります。学力の二極化に陥らないよう、OJTを推進して、授業力を高めていきます。</p>

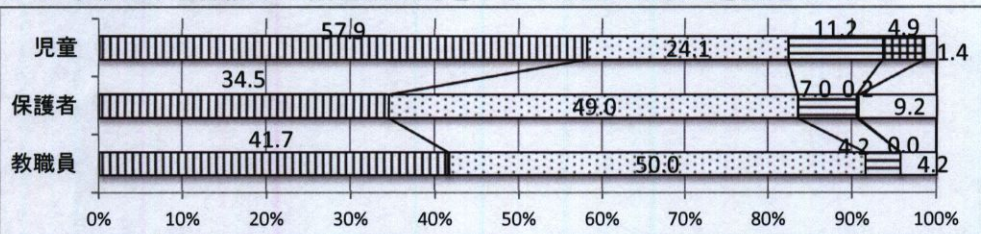
Q9. 学校は、縦割り班活動(ハッピータイム、ドリームハッピーなど)を通して、異年齢集団の活動が充実している。



質問9	たてわりはんかつどうは、たのしい。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.4	3.6	3.5
H27	3.4	3.5	3.2
H28	3.4	3.5	3.4△

【保護者のご意見】	<p>▲光が丘公園への全校遠足がなくがっかり。</p> <p>▲たてわり班活動はあるが、子供にとっては無理矢理やらされている状態で楽しみにしてはしていないので、もう少し仲良くなれば良いと思う。一緒に給食を食べるとか。</p>
【学校の取組】	<p>たてわり班活動は、本校の特色のひとつです。ハッピータイムや児童集会、長縄集会やドリームハッピー、ふれあいオリエンテーリング等の活動を通して、向山小に集う児童みんなが、兄弟姉妹のような関係になれるよう、企画しています。今年度から、ドリームハッピーとふれあいオリエンテーリング(全校遠足)が隔年になりました。授業時数確保のため、行事の精選を図ることが理由ですが、そのことについて保護者の皆さまへの説明が十分でなかったことをお詫びいたします。</p>

Q10. 学校は、道徳授業や読書活動等を中心に心豊かな教育を推進している。



質問10	進んで読書をしている。		
	児童	保護者	教職員
H26	3.4	3.3	3.4
H27	3.2	3.1	2.8
H28	3.4△	3.3△	3.4△

【保護者のご意見】	<p>▲文字をすすんで読まない子のために、もう少し本を読む習慣のつく仕組みがあると良いなと思います。</p> <p>○「本の探検ラリー」、とても良い企画だと思います。クイズ方式で答えを見つけていくうちに、たくさん本に出会えるすてきな企画ですね。親が子供のために図書館で借りたり、子供が自分で借りる本は、たいいどこか偏りが出てしまいます。探検ラリーなどでいろいろなジャンルの本と子供自身が出会えば学校の図書室で多種多様な本を見つけ出すことができるようになると思います。</p> <p>○「道徳は答えは一つではない。時に悩み、葛藤しつつ考えを深め、自らの生き方を育てていくことが求められる。」と話されていました。子どもたちが、道徳の授業中、悩んで手が挙げられないのも仕方がないのかな、でも、「私はこう思います」とクラスメイトに発表する勇気もてるようになると思います。</p> <p>▲道徳の授業はとても難しいと思いますが、やはり机上の論になっていて子供の言動を見ていると心に浸透していないと思います。</p> <p>○道徳授業地区公開講座を聴いて、道徳教育の難しさを感じた。「大人」「親」である私たちにとってさえ、「道徳教育が目指すこと」をまだ達成できていない部分がたくさんあるのではないかと、自分自身を振り返る機会ともなった。</p>
-----------	--

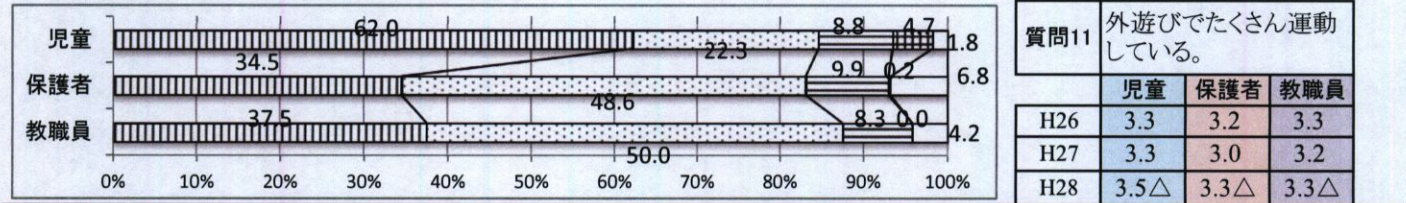
【学校の取組】

本校の重点目標の一つ「心豊かな児童の育成」のために道徳の授業や読書活動はたいへん重要な役割を担っています。

児童の心に響く道徳授業の指導方法を、発達の段階に応じて工夫し、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童が自分自身の問題と捉えて向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図っていきます

また、学校図書館を活用して、学校図書館支援員や貫井図書館の協力を得ながら、年に2回の読書週間、朝読書、図書時間を充実させ、アニメーションや本の探検ラリー、ブックトーク等を実施しています。保護者の方々にも参加していただくことで、家族みんなで読書を楽しむようになってくれればと考えています。

Q11. 学校は、体力向上の充実に努めている。



【保護者のご意見】

- ▲私の小学校では朝も運動・遊びの時間があり、放課後も帰宅しなくてもそのまま校庭で遊べました。それに比べると体力づくりははるかに少ないと思います。
- ▲走る機会を作ったりしているが圧倒的に田舎の子供とは走る量が違う。
- ▲毎朝登校したら朝学習などの前にマラソンをするのはどうでしょうか。たびたび学校から「朝、もう少し遅くするように」と連絡がありますが、それならば登校時間を早めて学校に到着したらマラソンをするというのはどうでしょう。登校時間が遅いように感じます。

- 保護者参加型授業**
- 初めてバットを握ってボールを打てて楽しかったと、子供が嬉しそうに話してくれた。
 - 子供とキャッチボールができるとは思わなかった。
 - 体育館でのボールを使って運動が工夫されていてよかった。
 - 玉入れは自分が子供のとき以来で、親も楽しかった。
 - ユニフォーム姿のお父さんたちがかっこ良かった。

【学校の取組】

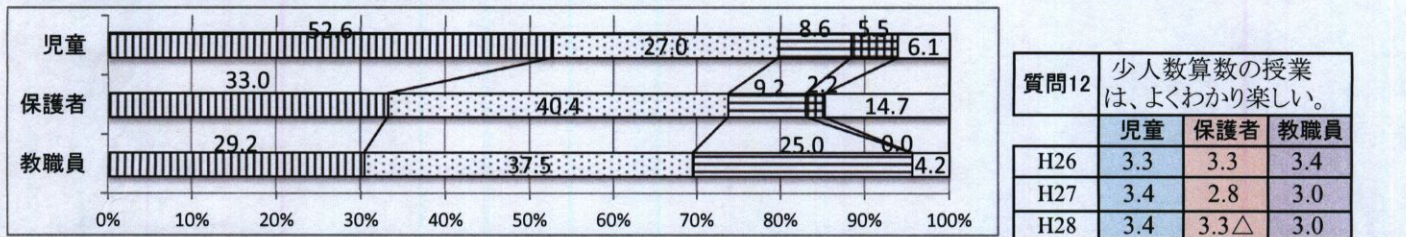
本校では平成27・28年度、校内研究のテーマを「楽しさや喜びを味わいながら、進んで運動に取り組む児童の育成」に設定し、児童が進んで体力向上を図ろうとする態度を育むための指導の工夫に取り組んできました。学年ごとに実施した研究授業は保護者のみなさまにも公開し、「研究だより」を発行してその取組の様子をお伝えしてきたところです。

また、児童集会、体育朝会では、体づくり運動、体ほぐし運動、なわとび集会、長縄集会、12月にはマラソン週間を実施するなど、体力向上を図っています。

新体力テストの結果によると、本校の児童は「立ち幅跳び」と「ソフトボール投げ」が低い傾向にあるので、体全体を使ったフォームを意識したトレーニングを授業や体育朝会に取り入れて技能を高めていきます。

子供たちが学校で過ごす時間と家庭で過ごす時間、それぞれに役割があります。バランスも大切です。学校教育全体の中で、体を育て、頭を育て、心を育てていく、それが私たち学校教育に携わる者の使命だと考えています。

Q12. 学校は、算数の少人数指導を効果的に実施している。

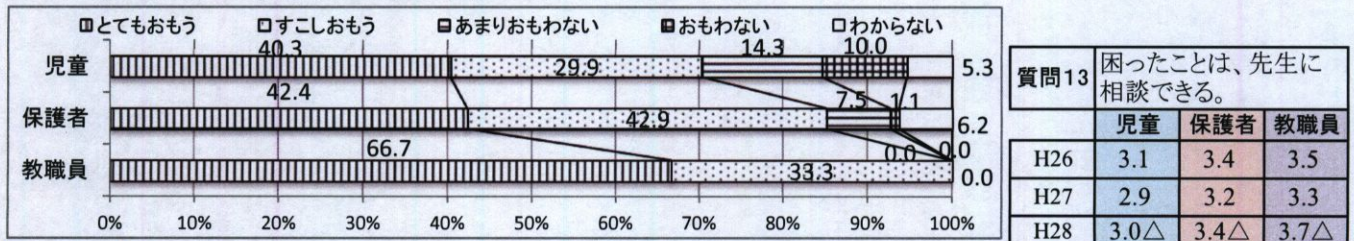


【保護者のご意見】

- ▲今年度になり、ようやく少人数指導が行われていますが、これまで数年ほぼ通常授業だったため、単元によっては理解度が低いところもあるようです。
- 保護者会で算数の少人数グループでの学習についての説明を、ただ漠然と聞いておりましたが、学校公開で授業を参観させていただき、改めてその必要性和重要性を感じました。
- 算数の少人数制のクラスでは、同じ内容でも説明の仕方の違いに驚きました。全員が理解できるようになるためには良い方法だと思いました。クラスごとの課題や要点などが親にもわかると家でも教えやすいと思います。
- ▲グループ等で分からないところを話し合ったり教え合ったり、もっと少人数というところをうまく生かせば、分かる子分からない子の差が無くなるのでは。
- ▲娘が自分のクラス分けの意味を理解していない。また、レベル分けでない時もあるようです。せつかくレベルに分けるのであれば、上のクラスへ行きたいと思うような向上心も合わせてつけて欲しいです。
- ▲家で勉強をみていると、基本的なこと、筆算や計算のやり方が分かっていないことがよくあります。少人数だともう少し計算くらい見てもらえるかなと思っていたので効果的とは言えないと思います。
- ▲塾に行っている子の多いクラスでは、プリントが中心で、ほとんど講義がないと言っています。受験算数と算数教育は別だと思っています。どの子にも魅力ある講義を受けさせてほしいと思います。
- 5年生の算数は、「百分率とグラフ」の単元で難しい内容をきちんと理解してほしいと思っていたので、どんな授業をしてくださるのか、興味がありました。今回はゲームをしながら割合を理解させるという内容で、子供たちは楽しみながらすすんで授業に参加している姿が見られ、よかったと思います。これからも「少人数」という良い点を生かした算数の授業をお願いします。

【学校の取組】
 向山小学校では、算数の授業を、1・2年生と5・6年生は学級数+1、3・4年生は学級+2の習熟度別グループに分け、授業を行っています。これは、「東京方式ガイドライン」（東京都教育委員会のガイドライン）に沿った取り組みです。とりわけ算数は、基礎的なことが習得できていないと、その先はずっとわからないままになってしまいます。そこで、わからない問題があったら、どこでつまづいてしまったのか、その原因となるところまで立ち戻り、学年を超えて学び直すことができる、また、習熟が早い児童は発展的な内容まで進んで学ぶことができる、それが東京方式ガイドラインです。本校では、すでに何年間か実践していますが、その取り組みについてはやや説明不足でした。今後は、児童や保護者に明確に授業の方針を説明して、教員サイドは授業計画をしっかりと示して、算数習熟度別学習に取り組んでいきます。

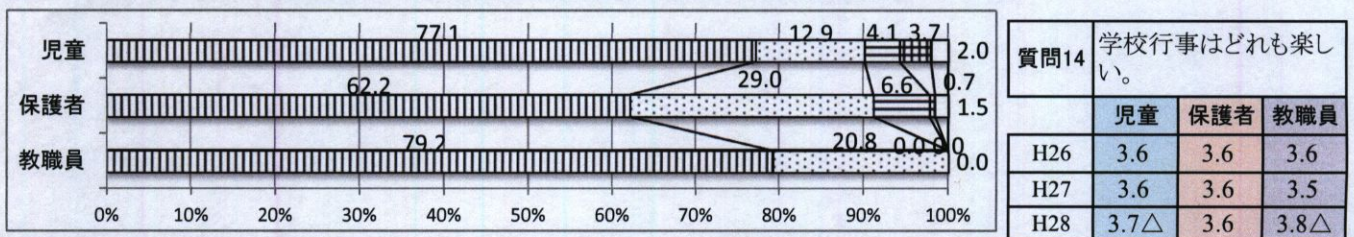
Q13. 学校は、児童や保護者の相談に適切に対応している。



【保護者の「意見」】
 ▲1年生の間は特に個人面談や家庭訪問等、もう少し先生と1対1で話せる機会が欲しい。保護者会や学校公開ではいまいち子供の普段の様子が分からず、知りたくても特にこちらから電話をするのも気が引けてしまう。面談が年2回では少なすぎ。希望者だけでも面談出来る週などが欲しい。
 ○こちらの話も聞いてくださり、アドバイスもいただきました。
 ○相談させていただいたとき、迅速に尚且つとても丁寧にに対応していただきありがたかったです。担任の先生はもちろん、算数少数の先生やふれあいルームの先生にも子供自身が相談出来る信頼関係を築けていて、親としてとても安心感があります。
 ▲親としても誰にどのルートで相談すれば良いのか分からず、問題が解決しないまま時間だけが過ぎていく。

【学校の取組】
 私ども教員にも個性はあります。しかしそれは、教育方針の違いであってはいりません。向山小学校の教職員は、常に、目指す学校像、児童の姿の実現に向けて、協働体制で取り組む、それが学校教育です。本校でも、全教職員が、一人一人の児童との出会いの厳かさや責任の重さを自覚して、教育活動に取り組んでいるところです。ご意見を真摯に受け止め、さらに、一人一人の児童に寄り添い、時には厳しく、児童とともに歩んでいくことを、改めて、肝に銘じて教育活動に取り組んでまいります。
 本校には、スクールカウンセラーが週に1回、心のふれあい相談員が週に2回来校して、児童だけでなく保護者や家族の相談に応じています。お電話でも結構です。ご相談ください。

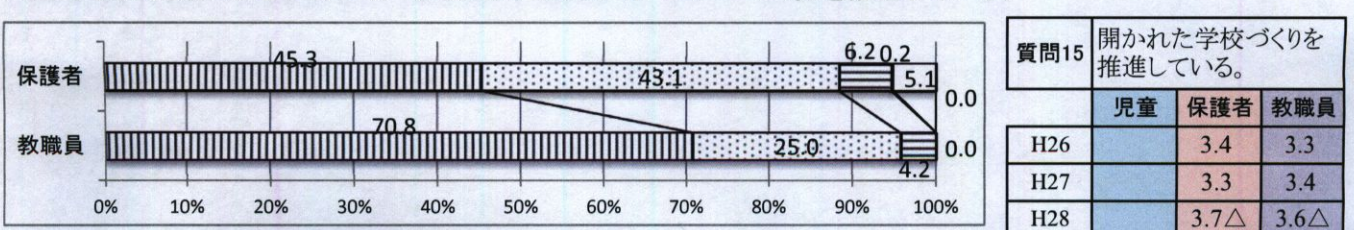
Q14. 学校は、運動会、全校遠足・移動教室、展覧会等の学校行事の充実を図っている。



【保護者の「意見」】
 運動会:
 ○マスコットキャラクターを全校で募集して選ぶのはとてもよいと思った。
 ○学年だよりなどに詳しく説明が書いてあり、子どもの細かい位置を知ることができ参考になった。
 ○応援合戦に迫力があつた、応援団ががんばっていた。
 ○PTAの方々が見回るシステムはとても良いと思う。人数も多くて良かった。
 展覧会:
 ○どの作品も工夫を凝らし、先生の指導が良いのだろうと関心して拝見しました。技術や正確さで判断されるのではなく、表現そのものを楽しんでいる姿が伝わってきて、子供たちが楽しく製作している様子が目に浮かびました。
 ○すばらしかったです。身近な素材を使っていたり、学年ごとにまとめられつつもダイナミックさがあり、見せ方が上手だと思いました。

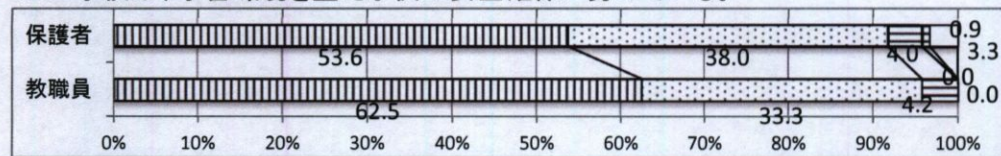
【学校の取組】
 学校行事は、子供たちにとって楽しみな教育活動です。日頃の授業では見られない子供たちの表情に出会うことができたり、隠れていたリーダーシップが発揮されたりするのは、行事という非日常ならではのことで、
 しかし、学校教育には時間的な制約もあります。行事は学校の教育活動の一環であり、それぞれに、児童の発達段階に沿った「ねらい」があります。行事に取り組むとき、「ねらい」を明確にして、それを達成するための「手立て」をしっかりと計画的に進めるよう、企画・運営していきます。

Q15. 学校は、開かれた学校づくり(学校公開・お便り・ホームページ等)を推進している。



【保護者のご意見】	<p>▲ホームページを活用して欲しい。学校が何に力を入れてどのような方向性で学校活動を行っていきたいのを知りたい。更新を続けていくことで、家庭では何を教えていけばよいのか見えてきそうな気がします。通勤時間や昼休みでもちょっとした空き時間にホームページに最新の情報が載っていると助かります。もっと子供が体験したことを聞き出せるきっかけを欲しいと感じます。</p> <p>○今年の学校公開は土曜日だったので全回参加することができ、嬉しく思っています。子供も、親が来ると嬉しいようで、それが伝わってくるので心がほっこりします。</p> <p>○今年度の学校公開は発表したり参加型のものが多く、楽しく見せていただいています。</p> <p>▲平日も参観できる日を設けていただければうれしいです。</p> <p>○学校外から講師を招いて行う授業は、子供たちにとっても新鮮で、関心も強く、みんな、真剣にVTRを見たりお話を聞いたりしていたと思います。先生方の準備もたいへんかと思いますが、こういった授業を受けられる機会は貴重なので、ぜひ、今後も継続していただきたいです。</p> <p>○先日、「席書会」を見学させていただきました。子供たちが書き初めに真剣に向き合っていた姿に成長を感じました。</p>
【学校の取組】	<p>PTAや学校応援団、町会、青少年育成委員会等と連携し、児童の安全安心の確保に努め、児童の健全育成に向け、地域社会に開かれた学校づくりを推進していきます。</p> <p>今年度、向山小学校では、土曜授業日以外にも、様々な授業を保護者や地域に公開してきました。まだまだ広報活動は十分ではありません。保護者や地域の声を受け止めて、改善を図ってまいります。</p>

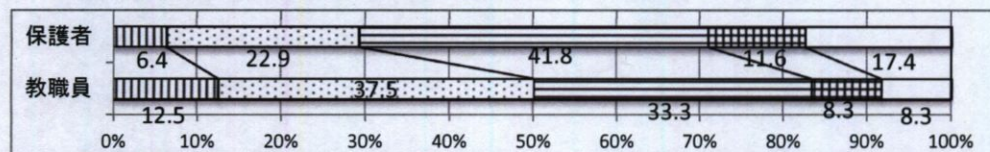
Q16. 学校は、学習環境を整え子供の安全確保に努めている。



質問16	学習環境を整え子供の安全確保に努めている。		
	児童	保護者	教職員
H26		3.4	3.5
H27		3.3	3.3
H28		3.4△	3.7△

【保護者のご意見】	<p>▲学校ボランティアで入るときに気になっているのですが、子供たちが掃除の仕方をよく分かっていないようで、雑に感じます。ほうき一方方向に掃くとか掃いてごみを集めてからぞうきんがけをするとか、掃除の時間なのに走り回って遊んでいる子がいたり。すべての掃除の様子を見たわけではありませんが、全く来ていないと思います。それぞれの場所に先生が付いてきちんと教えるべきだと思います。</p> <p>▲廊下を走っている児童をよく見かけます。特に後ろの人と話しながら走るの危険だと思います。階段の下の方をジャンプで下りてきた児童がぶつかって来たこともあるので、けがをしなければ良いと心配です。</p>
【学校の取組】	<p>清掃の時には必ず教職員が児童と共に活動していますが、すべての清掃箇所を網羅できないのが現状です。このようなとき、保護者や地域の方がボランティアとして見守ってくださり、本当に助かっています。来年度も、学校安全安心ボランティアへのご協力、よろしくお願いいたします。</p> <p>学習環境を整えること、それはすなわち、よりよい学級経営です。子供たちにとって居心地の良いクラスであれば、精神的な安定につながり、落ち着いて学習に取り組むことができます。本校では、担任任せにならないよう、教職員全員が組織的に、「オール向山」で教育活動に取り組みます。</p>

Q17. 小学校中学校一貫教育を開進第二中学校、南町小学校と推進しています。小中一貫教育への学校の取り組みを分かりやすく伝えていきますか。



質問17	小中一貫教育への学校の取り組みを分かりやすく伝えていきますか。		
	児童	保護者	教職員
H26			
H27		1.8	2.0
H28		2.3△	2.6△

【保護者のご意見】	<p>▲実施にどんな取り組みがあったのか全く知らされていない気がします。</p> <p>▲今年から小中一貫教育のお手紙が発行され、全く知らなかった昨年と比べると活動が行われていることは知ることができました。しかし、一貫教育が子供たちに反映されている実感はありません。</p> <p>▲具体的な成果が伝わりきれていないように思います。</p>
【学校の取組】	<p>開進第二中学校と南町小学校と向山小学校は、平成25年度から、練馬区教育委員会小中一貫教育研究グループの指定を受け、2年間の人権教育の研究を経て、「9年間を見通した系統的な人権教育」や行事、授業研究の交流を引き続き行っています。</p> <p>○具体的な取組としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人権教育課題改善カリキュラムの共通実践 ②小中で共通の課題になっている「学力をつけること」を目標に、児童・生徒の家庭学習の習慣化を目指した取組 ③児童・生徒交流 i) 開進二中学生徒会による小学校での「思いやり宣言」 ii) 小学生部活動体験の3つの柱です。 <p>○平成29年度は、今年度実施した小中教員の合同授業の継続、中学校の教員による小学校での出前授業、部活動体験や児童会と生徒会の交流、家庭学習の定着への取り組みや生活指導など、小学校での指導を中学校で生かす取り組み等を視野に入れて、実践していく計画です。</p>

【その他の保護者の「意見」】	○「安全マップ作り」は、親の立場からも考えさせられました。「安全な面もあれば、危ない面もある」といろいろな角度から気をつけることができる意識付けにもなると思いました。
	○「薬物乱用防止教室」は、小学生のうちからは早いのでは、と思っていましたが、ケイタイをもったりテレビやパソコンから簡単に情報が得られるし、最近、小学生の薬物使用のニュースを見て、今の時期にこそ、ちゃんとした知識を得ることが大切なかもしれないという気持ちにかわりました。このような授業をしていただけて、たいへんありがたいです。
	○視覚障害者スポーツは、貴重な体験になったと思う。生活科室での講話も、興味をもって聞いていた。
	防災訓練 ○希望者だけでなく、学校や地域全体と一緒に訓練 できることに意義があると感じた。 ○日頃からこのような訓練は必要だし、ありがたい。 ○AED救命訓練は大人でも勉強になった。 ○消防団や地域の方、PTA役員の方の協力で良い経験ができた。
	○「米を作ろう」では、黒い長靴下をはいて苗を1束ずつ丁寧に植えていた姿を思い出しました。みんなで丹精込めて育てた稲を、精米を経て、実際に食べられたのはたいへん貴重な経験をさせてもらったと思っています。

◆平成29年度 向山小学校の教育目標

人間尊重の精神を基調として、学校・家庭・地域社会との緊密な連携のもとに、心身ともにたくましく、知性と感性に富み、心豊かな人間性あふれる児童の育成を図る。また、時代の変化に対応し、国際社会に生きる知・徳・体の調和のとれたグローバルな資質を備えた人格の完成を目指す。

◇学校目標を達成するための基本方針……学校改善へ向けた取組

①「向山小学校の期待される子供の姿〔学習編〕」

⇒児童が主体的に取り組む授業

(1) 自らすすんで学ぶ子供 ⇒ (i) 自分の課題を解決する (ii) 最後まであきらめずに努力する

(2) 人と積極的にかかわろうとする子供 ⇒ (i) 自分の見方や考え方が広がり、深まる (ii) 心身を鍛える

○本校の人権教育の柱を「人との関わり」とし、①地域の教育力の活用（ゲストティーチャー等）、②体験的な活動（フィールドワーク等）、③学習形態の工夫（グループ学習、ICTの活用等）④「学級活動における生き方学習やキャリア教育」の4つに留意して、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ことができる人権感覚を育成する。

②「確かな学力」を身に付けさせることが学校教育の基本

(1) 基礎・基本の定着 (2) 学習習慣の確立 (3) 言語活動の充実と児童が主体的に取り組む授業

○算数は習熟度別少人数指導を行う。指導方法を工夫し、「立ち戻り学習」や「発展的な学習」を進めて、基礎基本の徹底と学力向上を図る。

○東京方式ガイドライン（東京都教育委員会のガイドライン）にそって

①「ぐんぐん」グループ（発展的な指導）、②「のびのび」グループ（基本的な指導）、

③「じっくり」グループ（補充的な指導）の3つのコースで学習集団を編成する。

6年生は2学級3展開、1・2・5年生は3学級5展開、3・4年生は、3学級5展開で実施する。

○理科は、2人の教員がチーム・ティーチングで行い、実験や観察などの体験的授業を中心にして結果や事象に対する考察力を高めていく。

③「人権が尊重される社会の実現」という未来志向的な目標を設定

『自分の大切さとともに他の大切さを認めること』ができるような人権感覚の育成のために、自尊感情を培う。

○児童の心に響く道徳授業の指導方法を工夫し、発達の段階に応じて、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉えて向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図る。

○「いじめは、人間として絶対に許されない人権侵害である」を基本姿勢として、『いじめ一掃プロジェクト』を推進する。

④「向山小学校の期待される子供の姿〔生活編〕」

(1) 安全な生活を送る子供 (2) きまりを守る子供 (3) 相手の気持ちを思いやる子供

○共に児童を育成するという視点から、学校と保護者、地域の連携を深め、学校公開や地域行事への協力を推進する。

⑤児童一人一人に適切な支援および必要な支援を行う。

(1) 個々の教育的ニーズの把握 (2) 教育相談的なアプローチによる指導・支援

(3) 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内組織体制の充実

○居心地の良い学校づくりのために、教育相談体制を整備し、その充実を図る。スクールカウンセラーと5年児童との全員面接、教師と児童とのこころ相談日の設定など、教師と児童との対話を重視し、ふれあいの中で信頼関係を築く。

○平成29年度より、本校に特別支援教室が開設されることに伴い、特別支援教育専門員が配置され、週に1回の巡回指導員が来校する。このことを機に、本校の教職員はますます特別支援教育に理解を深め、日々の教育活動の中で、児童の心に寄り添った指導を実践していく。